

平成 21 年度飼料用稲収穫実演会を開催

近年、安全で良質な国産自給粗飼料の確保や水田フル活用などの観点から飼料用稲（稲ホールクロープサイレージ）が注目されています。今後さらなる飼料用稲の生産と利用を推進するため、結城地域農業改良普及センターは、10月27日に結城市の農事組合法人「宮崎協業」の現地ほ場で、「平成21年度飼料用稲収穫実演会」を開催しました。当実演会は、結城市、県西農林事務所振興・環境室、（社）茨城県畜産協会と共催で開催し、生産者や県内関係機関など55名が出席しました。

実演会では、まず普及センターから結城市における飼料用稲の栽培概要や給与方法について説明し、次に県西農林事務所振興・環境室から飼料増産関連事業を紹介して、飼料用稲の生産と利用を呼びかけました。また、（株）タカキタより新型の細断型ホールクロープ収穫機の仕様について説明していただき、その後、生産者による収穫デモンストラクションを行いました。参加者はスムーズに流れていく収穫作業を熱心に見学しており、飼料用稲に対する強い関心が伺われました。

結城市では今年新たに6戸の農家が栽培に取り組み、現在32.7haもの飼料用稲が作付けされています。次年度以降、飼料用稲が一層注目されると思われるなか、飼料用稲を振興していくためには耕種側と畜産側のマッチングが最も重要になります。今後も普及センターでは、このような取り組みなどを通して、飼料用稲の生産と利用を関係機関一体となって推進していきます。